

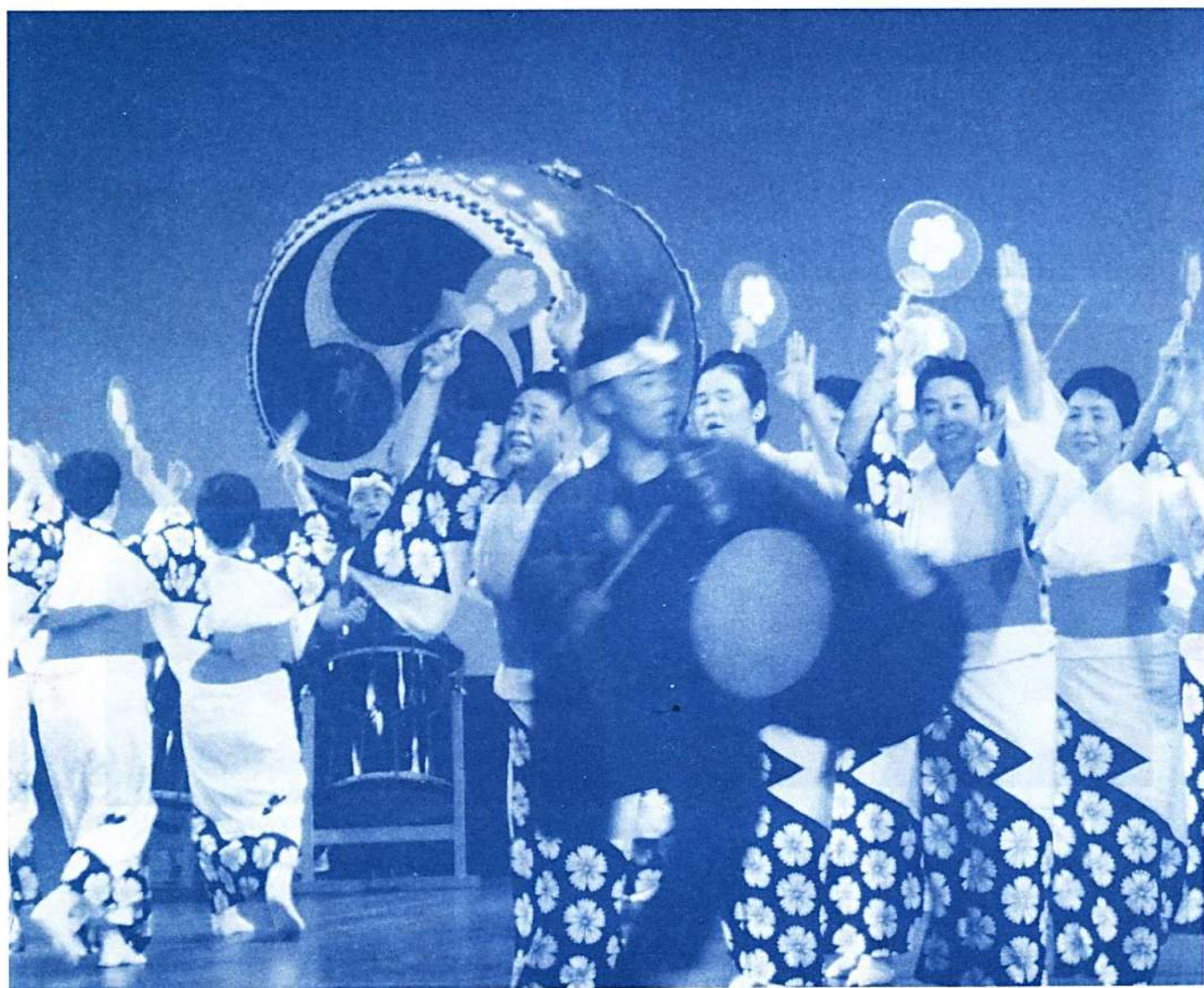
レクリエーション かながわ

# スコール

( S C O L E )

発行日 平成 8 年 12 月 1 日  
発行 神奈川県レクリエーション協会  
編集 広報委員会  
事務局 〒 231  
横浜市中区山下町 54  
県庁山下町分庁舎 5 階  
電話 (045) 651-5529  
FAX (045) 651-5530

## かながわレクリエーションネットワークをサポートする



日本民踊の披露《第 50 回全国レクリエーション大会 I N 愛知の種目別実践活動から》

- 第 50 回全国レクリエーション大会 I N 愛知終わる …………… P 2
- レクリエーションサミットを振り返って…………… P 3

- 永年の功績に対して …………… P 4
- 事業あれこれ

# 第50回を迎えた 全国レクリエーション大会 IN 愛知終わる 本県から140名が参加

第50回を迎えた記念すべき全国レクリエーション大会が9月13日（金）～15日（日）の3日間にわたり愛知県名古屋市を中心に県内4市1町で開催されました。

参加者は11,281人に及び、本県からは140名が参加しました。

「21世紀の生涯スポーツレクリエーション」を大会テーマに「次代へつなげよう！レク新時代」をスローガンとして、レクリエーションサミットや3種の指導者全国集会など、新しい時代にふさわしいレクリエーション運動の再構築を目指していく大会となりました。



遊びのひろばカローリング



フリークライミングに挑戦

新たなレクリエーション運動  
の展開を目指して!!



総合開会式



試合を待つラジボール卓球のみなさん

スナツブ  
あれこれ

私はYMCAのスタッフだった関係で、はやくからグループワークやグループ・ダイナミックスの勉強をさせられていました。  
一九七一年に福岡YMCA総主事になった時、佐藤靖典氏と出会って「本物のレク指導者を養成しよう」と語り合い、日本ではじめて1年間コースのレク指導者養成講座を開講し、講座の最初の4回にGWTを行いました。レク指導者養成講座にGWTがはいったのはじめての講座です。その後レクの世界にGWTは定着し、グループレク・ワーカー養成カリキュラムでは必修科目になりました。  
レク指導者養成に微力を尽くしたということで、今回はからずも総裁表彰をいただき、大変感動しております。  
レク・サミット共同宣言を受けて、やらねばならぬことが山積しておりますが、今後とも皆様のご指導をいただいで、本物の指導者を養成するためにがんばりたいと思います。



総裁表彰を授与されました  
神奈川県会員 坂野公信さん

# レクリエーション・サミットを振り返って

副会長 篠崎 明 弘

第50回全国レクリエーション大会の特別プログラムとして、9月14日、名古屋国際会議場において3時間半にわたるレクリエーション・サミットが行われました。

日本協会総裁殿下のご臨席のもとに、おおむね各都道府県の代表93名、大会関係者約30名が出席して、今後のレクリエーションの在り方について熱い論議が展開されました。

## テーマは三つ

このレク・サミットでは、あらかじめ日本協会から3項目のテーマが示されました。

①レクリエーション運動を推進するための魅力ある人材を育成し、活性化させる。

②市民に心からの感動と本物の楽しさを学んでもらう場を提供するサービス機関としての組織に改組する。

③時代、人々の暮らし、個人の関心に適応する意義ある事業を展開する。

各都道府県レク協会は事前にこのテーマに添って検討し、その結果を日本協会に報告、日本協会はそのまとめをサミットの資料として提出されました。



レクサミットで吉田専務理事のオリエンテーション

## 総裁殿下の基調提案

サミットは坪内会長のあいさつに引き続き、藺田碩哉氏の司会で進められました。初めに、総裁殿下から基調提案をいただきました。

要約させていただくと、「戦後の疲弊の中から立ち上がる方法論として、当時、フォークダンスからスタートしたことの意義はあった。50年を経た今、時代をリードするレクリエーションの在り方やその必要性を本気で論議してほしい」といった主旨であったと思いますが、大変、示唆に富んだ、核心にふれる問題提起をさせていただきました。

出席者数と時間のバランスを考えれば当然のことかと思われませんが、あらかじめ定められた、発言者数名が、口火を切る形で始められました。

## まずは人材論

始めの話題は「レク組織の活性化」と「指導者」にかかわるものでした。活力ある組織に変えて行くためには、①「人が組織を作っている以上、人が変わらなければ組織は変わらな

い。日本協会は市町村協会に着目しつつ、レクの総括団体としての機能を持つべき。レクは、これからが本当に必要な時代になる。」②「リーダー交替論が出ているが、自分はこので交替することを公言した。勇気

をもって退くことも必要だ」③「世代の交替をというが、若返りがよいとは限らない」といった体験にもとづく具体的な話と指導者の能力・資質にも話題が及びました。

④「コーディネーターの養成には問題がある。能力が伴っていない」⑤「人が交替する方法もあるが、意識を変えることも大切ではないか」⑥「大会のオープニング、オペラに問題を感じる。レクリーダーが最も得意とするところをプロにまかせていた」⑦「県協会の役割にはマネージメントと指導がある。指導面の人材交替システムは考えてもよいと思う」⑦「交替論は年齢ではなく、夢やロマンがあるか否か、が大切であろう」といった論議が展開し、中でもレク・コーディネーターの役割や養成方法、社会に役に立つ人材養成への期待などの発言が目立ちました。

## 大きなインパクト

サミット後半の話題はレクの捉え方・事業の在り方、組織経営などについて、ニュースポーツの協会からも、様々なアイデアや体験談が披露されました。その内容は他の機会に譲りますが、要は「明日無くなったとしても、だれも痛痒を感じないようなレク組織」にならないよう、改めて、今後のレク運動を考え合う大切さを感じました。

# 永年の功績に対して3名が表彰

第50回全国レクリエーション大会の開会式式典において、これまでレクリエーション運動に貢献してきた総勢94名の方々が表彰されました。

本県からは、永年にわたりのレク運動に貢献したとして篠崎明弘氏が文部大臣感謝状を、そして地域や種目において、顕著な活動実績があるとして池端正直氏、波多野良子氏の両名が会長表彰をそれぞれ授与されました。



篠崎明弘さん



池端正直さん



波多野良子さん

このたび、愛知県名古屋市中区で開かれた第50回全国レクリエーション大会の開会式の席上で、思いがけず文部大臣の感謝状をいただきました。これは、日ごろから御指導、御鞭撻をいただいている、レク関係の皆様方の御配慮の賜と、改めて御礼を申し上げますとともに心から感謝致しております。

今年の全国レク大会は、スタートしてからちょうど半世紀目という節目の大会で、戦後の歴史のあゆみがそのままレクリエーション運動のあゆみであることを、実感する大会でもありました。そして今、生涯学習・生涯スポーツを実践する時代を迎えました。この間、人々のレクに対するニーズや価値観も大きく変容してきました。

時代に遅れず、時流に流されず、調和のとれたレク活動とはなにか、その方向を見定めつついい汗を流して行きたいものと願っています。

・高校時代YMCA会員の友人に誘われ集会に参加しゲーム、ソング等多くのレク活動を体験したこと。また、県教委主催のSD講習会でアメリカ人講師による楽しい指導に引き込まれ、「校内クラブ活動」に、また「県内青年団指導者を対象としたSD講習会」に指導主事の先生方と一緒したこと。

・学校教育から青少年行政に移り勤労青少年を対象とした仕事で、最初の館長がレク界大御所の故松原五一先生で、そのご縁でレク界の諸先生方とお会いできたこと。更に「レク・スクール」「FDスクール」にと気がついたらレクにどっぷり首まで浸かっていたというわけです。

今回、はからずも全国レク大会で日本レク協会会長からレクの普及振興に尽力したとのことで表彰されましたが、これも皆様方のおかげだと感謝しております。ありがとうございます。

思いがけなく賞をいただき、とまどいながら、反省の機会を与えられたものと思っています。

「さあさ、あつまれ、この指とまれ年やお国は……」

と、自作の詩を口ずさみ、人さし指を天にねけて立て眺めました、白魚の様なというには、あまりにも程遠い骨太でしわだらけ。「この指とまれ」。なんて、おこがましくて義理にも言えない。

戦後間もない頃、故松原先生、前会長植村先生にご指導いただいた頃を思い、当然のことながら世代の流れと共に確実に変化してきています。社会教育やレクリエーション活動

は、お金の力だけでは解決できないものであり、みんなで大切にしあう心を忘れてはならないと考えています。これを機にこれからもみなさんとの交流を深め、自分を見つめながら心の財産を大切にしていこうと思えます。



第10回  
かながわ  
レクリエーション  
フェスティバル  
IN 海老名

秋晴れのさわやかな空の下、海老名運動公園、有馬高校、海西中学校の三会場にて、第10回かながわレクフェスティバルが大勢の参加者で盛大に開催されました。

参加者は受付をすませてから開会式会場へ、カラフルなユニフォームで会場はパッと花が咲いたような華やかさ、全員によるラジオ体操の後にはそれぞれお目当てコーナーへ。参加者のみなさんが、これを契機として更に交流の輪を広げ、県民の生涯スポーツレクリエーション活動の振興に資して下さることを期待します。



カラフルなユニフォームで  
開会式

## 《新春のつどい》

平成9年1月25日(土) 16時から  
会費七千円・中華街大珍楼新館にて  
申し込みは県レク事務局へ

# レクリエーションサミット共同宣言

平成8年9月15日

第50回全国レクリエーション大会を機に、全国各地のレクリエーション関係者、また各加盟団体の代表が一堂に会して、この運動の現在と未来に関して徹底した討議を行った。半世紀の運動は、さまざまな成果を生み出したが、めまぐるしく変化する社会情勢を前に新たな方向性の確立が緊急の課題となってきた。今こそ過去の実績を生かしながらも、過去にとらわれず、時代の趨勢を見越した大胆な変革のため、ひとり一人が主体性と情熱を持って行動を開始する。われわれはレクリエーション運動の再出発を期待して、次の諸点を決議し、かつ提案する。

## 1 レクリエーション運動の目的

レクリエーション運動は、多様な遊びを通じて、人生の真の楽しみ方を市民に提案しその機会を提供することを基本的な使命とし、地域の人材養成を最大の眼目とする。

そのために、多様なレクリエーション活動を取り上げ、その普及と拡大のために総合的な支援活動を行なうことである。

## 2 レクリエーション協会の役割

すべてのレクリエーション協会の役割は、さまざまな人生の楽しみの初歩的な段階から中間的な段階までのプログラムを提供し、さらに高度な段階をめざし、かつより高度な段階への橋渡しを行なうところにある。その実現のためにレクリエーション協会およびレクリエーション指導者は、体育協会をはじめ、さまざまな文化・スポーツ・芸術・レクリエーション関係団体との総合調整機能を果たし、その連携を強めるための具体的なアクションを起こす。

## 3 レクリエーション組織の確立

この目的達成と役割を果たすためには、すべての都道府県に自立したレクリエーション組織を確立することが急務である。自立した組織とは、独立した事務所を持ち、自前の専従職員を置き、一定の予算規模を有する機能的な事業体である。

全都道府県組織がこのレベルに達するために日本レクリエーション協会は、5年間にわたる中期計画を策定し、都道府県レクリエーション協会とともにその実現に向けて全力を注ぐ。

これらの改革を前進させるためには、レクリエーション・コーディネーターをはじめとする人材養成やそれらを活用する諸事業及び組織の抜本的な見直しが欠かせない。この問題について、継続して議論をすすめるためにできるだけ早い時期に都道府県、ブロック、全国レベルでの討議の場を最低限年に1度用意し、改革の成果を評価し、公表する。

第50回全国レクリエーション大会